

# 令和4年度 探究活動中間発表会

NAを用いた研究に活用されています。しかし従来品は高価であり、高校教育の現場への導入が困難でした。そこで私たちは実験機材の安価な自作方法を確立することで、近年教育においてより重要な位置を占めるようになってきた探究活動のレベルを興譲館、さらには他校で引き上げ、最終的には日本の卓越した科学人材の育成に協力することを目指して行いました。これからさらに研究を深めることで研究機材の自作による探究活動の質の向上の可能性を探っていききたいと思えます。



私たちが研究開発しているサーマルサイクリャーはDNAを増幅させる方法であるPCR法を行うための装置です。現在社会では新型コロナウイルスの検出、この興譲館では環境D

これからの探究活動〜機材自作の視点から〜

二年一組 上野 能登(米沢五中出身)

最優秀賞  
自作サーマルサイクリャーの開発計画

なのですが、実際にポスターを作るとなると発表内容に加え、どうまとめるかという問題が想像以上に重くのしかかってきました。自分たちの活動を伝えるという立場で考えると、実験時に画像の記録を追加するなど、普段の活動にフィードバックされることが多くあると感じました。また、様々な人から意見を頂くことや他の班のポスター発表を聞くことで気付くことも多くありました。中間発表での反省から、これからの活動を見直してよりよい活動となるようにしていきたいと考えています。



この度、春から行ってきた探究活動の中間発表会が行われました。各グループがこれまでの探究活動をまとめ、発表会に臨んだことと思います。私は、ポスター発表を聞くときは発表内容に注目しがち

探究活動中間発表会からの学び

二年一組 硯里 陽介(米沢二中出身)

最優秀賞  
環境DNAを用いたタヌキ(Oryzias latipes)の生息域調査およびプランク作成

現在私たちは主観に基づく尺度の作成に成功している。これから客観に基づくものを作り、より精度の高い尺度にしていきたい。



研修での助言をもとに  
二年一組 齋藤 誉生(小国中出身)

最優秀賞  
興譲館における批判的思考力の測定尺度

令和4年12月23日発行  
第54号 山形県立 米沢興譲館高等学校  
〒992-1443  
山形県米沢市大字笹野1101  
TEL 0238-38-4741  
FAX 0238-38-2531  
<http://www.yonezawakojokan-h.ed.jp/>

# 全国大会出場報告

## 九年間の決着

フェンシング部 三年五組 櫻井 快仁(米沢二中出身)

私は八月七日に米沢興譲館高校フェンシング部の一員として香川県で行われたインターハイにて種目男子個人対抗エペに出場してきました。私にとってこの大会は約九年間たくさんの辛いこと、苦しいことと同時にそれ以上の楽しい時間を与えてくれたこの競技に別れを告げるため後悔だけは残さないようにしようという気持ちで臨みました。その結果、勝利こそ出来ませんでした。自分らしい動きでポイントを取ることができ積み重ねてきたものを発揮できたと思います。最後に、一緒に活動してきた先輩、同期、後輩の皆様、一人一人にあった指導をしてくださった顧問の先生方、支えてくださった保護者の皆様ありがとうございました。



## 三十一文字に思いを込めて

文芸部 二年二組 石井倅之介(米沢四中出身)

今年の全国高総文祭の開催地は、文化と流行の発信地である首都・東京。私は「文化部のインターハイ」とも称されるこの大会に参加することとても楽しみにしていました。文学研修では、多くの近現代の作家や芸術家が居を構えた北区田端・王子を巡り、国語便覧にも載っている貴重な資料を見て、文豪たちの足跡を辿ることができました。全国から集まった高校生歌人たちの交流では、日頃の創作活動で心がけていることや、どんなときに歌を思いつくかなど、言葉を紡ぐよるこびを共有しました。復路では大雨による新幹線連休に見舞われてしまいましたが、これもまた、良い思い出になってくれることでしょう。これからも三十一文字に思いを込めて、創作に励みます。



## 夢の全国大会へ

美術部 三年一組 中川 梓(高畠中出身)

私は七月三十一日から八月四日に東京都美術館で開催された第四十六回全国高等学校総合文化祭東京大会美術部門に出場してきました。集大成を披露するために、高校生活の心境をテーマに制作することを決めました。悶々とした毎日と将来への期待を対比させるために明暗をつけ、新型コロナウイルスが収束した世界への希望を表現しました。全国大会では、作品を通して全国の高校生達の個性豊かなメッセージ性や世界観を感じ取ることができ、自分の感性が一気に広がりました。このように貴重な経験ができたことを、とても嬉しく思います。美術部で培った表現力や感性を今後の活動に活かしていきたいです。



## 山形一勝!

三年四組 井上 阿弥(長井南中出身)

私は、七月三十一日から八月二日にかけて東京都墨田区総合体育館で開催された全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門に参加してきました。かるたは小学校の頃からやっていますが、団体戦という形は初めてでした。県チームのメンバーはみんな学校が異なるため、揃って練習する機会はほとんどありませんでしたが、お互いにコミュニケーションをとり、周りの状況を見ながら試合をするのは個人戦とは違った楽しさがありました。新型コロナウイルスの感染対策の為、大きな掛け声が制限されていたので、「山形一勝!」と言えなかったことがとても残念です。チームとしても決勝トーナメントには進めませんでした。このチームで大会に出場でき、多くのことを学ぶことができました。この経験を、これからの生かしていきたいです。最後に、応援してくださいました皆さん、本当にありがとうございました。



## 三学期の行事予定

- 1月6日 始業式 大掃除 課題テスト
- 1月14日 大学入学共通テスト
- 1月16日 スキー授業 一・一・二①
- 1月17日 スキー授業 一・三・四・五①
- 1月19日 スキー授業 一・一・二①
- 1月20日 スキー授業 一・三・四・五①
- 1月30日 スキー授業 一・一・二②
- 1月31日 スキー授業 一・三・四・五②
- 2月2日 スキー授業 一・一・二②
- 2月3日 スキー授業 一・三・四・五②
- 2月9日 校内探究活動発表会
- 2月16日 一、二年学年末評価
- 2月22日 スキー授業 一・一・二③
- 2月24日 スキー授業 一・三・四・五③
- 3月1日 同窓会入会式
- 3月2日 卒業式(午後) 大掃除
- 3月6日 一般入選準備
- 3月7日 一般入学者選抜
- 3月8日 入選業務 家庭学習日
- 3月17日 判定会議 合格発表
- 3月23日 修了式 大掃除 表彰伝達式④
- 3月24日 入学予定者説明会

## 三学期も熱く燃えよう



## 大会結果

### 女子団体

- 1位 1年2組
- 2位 1年1組
- 3位 1年5組

### 男子団体

- 1位 2年3組
- 2位 2年1組
- 3位 2年4組

### 女子個人

順位	学年・組	氏名	分	秒
1	3年2組	船山明莉	25	18
2	3年5組	平ひより	26	55
3	3年1組	吉田陽乃	28	12
4	2年5組	小玉萌美	28	22
5	2年5組	安藤結香	28	22
6	1年1組	須崎志帆	28	55
7	1年5組	阿部璃乃愛	29	50
8	1年1組	千葉美優	30	38
9	1年3組	山川結愛	31	13
10	2年3組	色摩瞳美	31	29

### 男子個人

順位	学年・組	氏名	分	秒
1	1年2組	和田歩大	41	21
2	2年4組	田村玲音	41	39
3	2年3組	安達理寛	41	45
4	3年2組	井上太	42	07
5	1年3組	佐藤龍	42	21
6	1年5組	吉田一翔	42	26
7	2年3組	佐藤拓未	42	33
8	2年4組	中川大成	42	43
9	2年2組	小野陽平	43	24
10	3年3組	鈴木悠斗	44	30

# マラソン大会



## はじめてのマラソン大会

### 男子一位

一年一組 和田 歩大(赤湯中出身)

十月六日、マラソン大会が行われました。少しずつ寒くなってきたところで、走るにはいい環境であったと思います。全校生で踊った準備体操のサッカーピクス、男女それぞれおおよそ三〇〇人同時のスタートは大規模で迫力満点でした。

道中では、保護者の方だけでなく地域の方も応援に駆けつけてくださり、地域との繋がりを実感することができました。また、興譲館周辺の風景を楽しむこともできました。このマラソン大会はかなり長距離でしたが、一人一人が日頃の体育の授業での練習の成果を発揮し、一定のリズムを保ってゴールまで走り切ることができたと思います。

全校生徒にとって初めてのマラソン大会でしたが、実りの多い大会であったと思います。

## 記憶に残った大会

### 女子一位

三年一組 船山 明莉(米沢六中出身)

三年ぶりのマラソン大会で優勝できたこと、そして女子は三年生の部活の仲間で三位までを独占できたこと、とても嬉しく思います。部活を引退してから個人で練習を行っていたため、その努力が実を結んで良かったです。地域の方やクラスの友達などたくさんの方の応援が支えになり、楽しく走りきることができました。

今回のマラソン大会は、先生方に支えていただかなければできませんでした。三年生の最初で最後の大会であるこのマラソン大会を成功させるために、たくさん活動してくださいました方には感謝の気持ちでいっぱいです。全校生が全力で頑張ったとても素晴らしい行事になったと思います。

## 合唱の素晴らしさ

三年一組 近野 稜太(米沢一中出身)

三年一組の合唱練習は、とにかく何よりも自信を持って大きな声を出すことを目標に行いました。全員が自分のパートという集団の中で歌う帰属意識、連帯感をもってもらうことを意識して練習しました。勉強でも圧倒的基礎力という言葉を使われることがありますが、まさにこの合唱では、パート練習という圧倒的基礎練習が功を奏しました。

結果として、最優秀賞を獲得することができました。私の指揮を見て、ほとんど練習できていなかった歌としての強弱や抑揚を表現してくれたクラスメイトには感謝しかありません。多種多様な考えを持つクラスメイトと一緒に、一つの目標に向かって努力、協力できた経験は、これからの人生で必ず生きてくると思います。





# 興 讓 祭

theme/ 自遊自彩      theme song/ キャラクター/ 緑黄色社会

## 非日常の二日間

興讓祭実行委員長

三年二組 市川 晴琉  
(米沢四中出身)

八月二十六、二十七日の二日間、興讓祭が開催されました。今年も三年ぶりに一般公開が行われ、制限がある中でも保護者の方々に興讓祭に来ていただくことができて嬉しかったです。準備を進める中で、今年の興讓祭には、没入感を求めました。興讓祭は学校生活の中の「非日常」であって、思い出にも残る特別な二日間だと思っているので、開祭式から閉祭式までずっとアドレナリンが出るような内容にしたいと思ってました。(文字数の都合上詳しくは書きませんが、結構拘りました)

企画内容などの良し悪しに関わらず、無事に二日間を終えることができよかったです。また、実行委員長をすることができて幸せでした。ありがとうございました。

